

6の1 社会科学学習指導案

場 所 6の1教室

指導者 中江 転

単元名 町人の文化と新しい学問

(1) めざすコミュニケーションの姿

多様な考えを出し合うことで、それらの共通点や相違点を確認し合おうとする姿

(2) 本時のねらい

杉田玄白、伊能忠敬らが蘭学を学ぶことによる社会への影響について、資料をもとに読み取り、理解するとともに、その後の時代の流れを考察することができる。(知識及び技能)

(3) 学習の展開

時	学習のながれ	・手だて ◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿にそまるとめの手だて
3	1. 前時をふり返し、課題をつかむ ○前時では何が分かりましたか。 ・鎖国中で外国文化はあまり入ってこなかった分、日本独自の文化が発達した。 <蘭学が日本に入ってきたことで、社会にはどのような影響があったのだろうか>	・前時に使用した資料を提示することで、江戸時代に発達した町人文化について確認し、本時の見通しをつかむようにする。 ・今までの日本の考え方と比較できるようにするために、蘭学の実際を提示する。
10	2. 蘭学の意味をつかむ ○蘭学とはどのような学問だったのか。 ・日本よりも進んだ学問だ。 ・西洋(ヨーロッパ)の学問という意味だ。 ・江戸時代中頃から入ってきた進んだ学問。	・杉田玄白や伊能忠敬の功績を映像資料で理解させることで、人々の蘭学への興味や関心や変化を考えられるようにする。 ・厳しく差別されてきた人、新しい知識や技術を役立てようとする人などの立場を提示することで、多様な立場や考え方が交流できるようにする。
20	3. 蘭学を学んだ日本人の考えやそれらが広がった後の時代の流れについて、考察したことを交流する ○蘭学を学んだ日本の人々は、どのようなことを考えるようになっていったらうか。 ・鎖国している場合ではない。このままでは日本が世界に取り残されていってしまう。 ・江戸幕府のやり方ではどこかの外国に支配されてしまうのではないか。	★どのような意見が出ているかを視覚的に児童が把握するために、意見集約用のホワイトボードを活用させる。 ◎杉田玄白、伊能忠敬らが蘭学を学ぶことによる社会への影響について、資料をもとに理解するとともに、その後の時代の流れを考察している。(ノート、発言)
7	4. 本時をまとめ、ふり返る 蘭学が日本に入ってきたことによって、西洋の新しい考え方が広がっていった。将軍を頂点にした厳しく取り締まる幕府の政治に不満や疑問を持つ人々が増えていった。	・今回の学習が今後の学習にどのようにつながっていくのか、自分なりに予想させることで、次への学習の意欲を喚起させる。

【実践のウリ】

蘭学の当時の人々や社会に与えた影響について、いろいろな視点で考える。武士や百姓、町人といった身分としての立場だけでなく、その身分制度の中で厳しく差別されてきた人や新しい知識や技術を役立てようとする人の立場で考えることで、多様な考えを交流する。この学習を通して、一つの物事や事象には、いろいろな見方・考え方があることに気付かせるとともに、広い視野に立って判断する大切さを養うことをねらう。

【実践例】

今回のコミュニケーション学習の素地となる、蘭学をおさえる際に、NHK for school のクリップ映像を視聴する機会を設け、必要な知識を提示したことで、時短につながった。どの映像も1～3分とコンパクトで分かり易いものであったため、子供は興味をもって視聴し、大切だと思ふことを積極的にメモしていた。

次に、本時の山場である、いろいろな立場で考えたことを交流する場を設けた。具体的には、医者や百姓、町人、武士といった職業や身分の視点だけでなく、厳しく差別されてきた人、新しい知識や技術を役立てようとする人といった、社会的背景や志を踏まえた立場について考えさせる場ということである。実際に、子供にとっては、幕府の視点からが一番考えやすかったようである。既習である鎖国の経緯を連想させながら考えをまとめた。そして、それを切り口として、武士や町人といったいろいろな立場を考えさせた。

【成果】

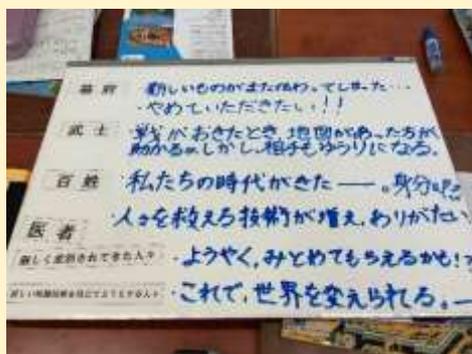
蘭学をおさえる際に、精選した映像資料を効果的に提示することで、授業後半での、本時の山場である、考えを交流する時間を創出することができた。

医者や百姓、町人、武士といった職業や身分の視点だけでなく、厳しく差別されてきた人、新しい知識や技術を役立てようとする人といった、社会的背景や志を踏まえた立場での視点を盛り込むことで、それぞれの言い分や思いに迫った考えを一人一人がもつことができ、それらをもとに多様な考えの交流につながることができた。

【課題】

グループワークでまなボードに記録していく際に、まとめ上げる時間にばらつきが出てしまい、グループによってはまとめ切ることができないまま授業を進めてしまう場面があった。ヒントやモデル文を提示したり、言葉を絞らせたりのなど、より効果的に、より簡潔にまとめるための場作りを考えていくことが必要だと考える。

【資料】



資料1 まなボードでのまとめ



資料2 ギャラリーウォークで交流

4の3 社会科学習指導案

場 所 4の3教室

指導者 井南 亮佑

単元名 自然災害からくらしを守る

(1) めざすコミュニケーションの姿

友だちと交流する中で自分の考えを深めたり、広げたりする姿

(2) 本時のねらい

石川県で地震が起こった時に備えて、日頃から自分がしておくべきだと思うことを友だちと交流する中で自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。

(思考力、判断力、表現力等)

(3) 学習の展開

時	学習のながれ	・手だて ◎評価
		<p>★めざすコミュニケーションの姿にせまるための手だて</p>
2	<p>1. 本時の課題をつかむ ○前回はどのようなことをしましたか。 ・地震に備えて自分ができることを考えたよ。みんなの考えを知りたいな。 <私たちが地震に備えて しておくべきことは何か></p>	<p>・黒板にネーム磁石を貼ることで、児童一人ひとりの考えを視覚的にわかるようにする。 ★同じ考えの児童をグループにして話合わせることで、備えておくべきだと思うことは同じでも、その根拠は多様であることを実感させ、深まりを感じられるようにする。</p>
10	<p>2. 同じ考えの友達と交流し、考えを深める ・私は家族と地震が起こった時の避難場所や連絡の取り方を確認しておくべきだと思います。理由は、地震が起きた時どうするか家族で話したことがないからです。</p>	<p>★異なる考えの児童をグループにして話し合わせることで、地震に備えておくべきことは、いくつかあり、様々な視点から地震に備えておくことが大切であると考えを広げることができるようにする。</p>
10	<p>3. 異なる考えの友達と交流し、考えを広げる ・僕は近所の人と普段から仲良くするべきだと思います。理由は、地震が起きた時に避難できているかご近所同士で確認し合うなど共助をできるようにするためです。</p>	<p>★自分の考えに対して根拠が増えたことを考えの深まり、新たにやるべき考えが増えたことを考えの広がりや位置づけた上で全体での意見交流を行うことで、児童が本時の学習前と学習後の自分の考えの変容を感じられるようにする。</p>
13	<p>4. 全体で考えを交流し、考えの深まりや広がり共有する ・僕は近所の人と仲良くすることで、地震の時に共助ができると考えていたけど、地域の防災訓練に参加することもいざという時の共助につながるとわかりました。</p>	<p>★自分とは異なる友達の考えでやるべきだと思えたものに新たにネーム磁石を貼ることで視覚的に考えの広がりがわかるようにする。</p>
5	<p>5. 本時のまとめと学習のふりかえりをする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>私たちが地震に備えてしておくべきことはいろいろある。僕は今日の話し合いでいざという時に共助ができるよう普段から近所の人と仲良くしたり、地域の防災訓練に参加したりしようと思った。</p> </div>	<p>◎石川県で地震が起こった時に備えて、日頃から自分がしておくべきだと思うことを友だちと交流する中で自分の考えを深めたり、広げたりしている。 (発言・ノート)</p>

【実践のウリ】

単元の終わりに既習内容を生かして、災害(地震)に備えて自分がしておくべきことを考える。最初の話し合いのグループは同じ考えのメンバーで組むことで、自分の考えを深められるようにした。2回目の話し合いのグループは異なる考えの友だちと話し合うことで、新たな視点を獲得させ、考えを広げられるようにした。話し合いの形式を工夫することで、多様な視点から自分がしておくべきことを判断できるようにした。

【実践例】

自然災害(地震)に備えて自分がしておくべきことをより深く、広く考えさせたいと思い、本実践を行った。具体的な手だてとして、グループを変えて、話し合いの機会を複数回取った。1回目の話し合いでは、同じ考えのメンバーでグループを組み、話し合わせることで、備えておくべきだと思うことは同じでも、その根拠は多様であることを実感させ、自分の考えに対する根拠を増やし深まりを感じられるようにした。2回目の話し合いでは、異なる考えのメンバーでグループを組み話し合わせることで、地震に備えてしておくべきことは、自分の考え以外にもいくつかあり、いろいろな視点から地震に備えておくことが大切であると考えを広げることができるようにした。最後にクラス全体で話し合い、自分とは異なる友達の考えでやるべきだと思えたものに新たにネーム磁石を貼ることで視覚的に考えの広がりがわかるようにした。

【成果】

グループの編成を工夫したことにより、子供に聞く必要性をもたせることができた。子供は新たな根拠や考えを得ることができ、理解を深めている様子であった。

【課題】

友達の意見を聞き、ノートに書くことが目的となってしまう、うまく話し合いが活発化していかなかった。ノートに友達の意見を書き終えた時点で話し合いも終了していた。原因として二つ考えられる。一つ目は、今年度は小グループでの話し合いをあまり授業中に行っておらず経験不足であったということである。二つ目は、友達の意見を各自が自分のノートに書くかたちにしてしまったことである。改善策として二つ考えた。一つ目はグループ内で書記の係をつくり、出た意見を一つにまとめるようにすることである。考えを一つにまとめる必要性をもたせることで、話し合いが活発化するのではないかと考えた。二つ目は「地震にそなえて一番にすべきことは何か」というように選択肢に順位をつけることである。一番を決めるという必要性をもたせることで、話し合いが活発化するのではないかと考えた。

【資料】

資料1 グループでの話し合いの様子



資料2 新たにやるべきだと思ったことに
磁石を貼る様子

【実践のウリ】

A領域（コミュニケーション）とC領域（GIGA スクール構想）の具現化を図るために以下の工夫を取り入れた。①『課題の工夫』で意見が絡む交流②『4色カラーカード』でフリー交流③『子供の司会進行』で活発な意見交流④『情報端末』で効果的な説明⑤『考えの変化の可視化』で交流の価値を実感⑥『ふりかえりの入力』で授業の満足度、参加度を簡単集計

【実践例】

課題を「自分が考える工業生産におけるいちばんの問題点は」とした。「いちばん」を付けることで、そのための理由や根拠が必要になり、自分の考えにこだわりが生まれた。こだわりをもつことによって、一方通行の意見発表ではなく、意見が絡み合う議論のような交流ができた。

また、個々の意見を大きく4つに分類することができた。そこで、子供がより安心して自分の意見を伝えられるように自由に歩き回って交流ができる場をつくった。その時に、4色に分けられたカードを胸のポケットにさすことで、一目で自分と同じ意見や違う意見の人が分かるようにした（青色は〇〇の考え、黄色は□□の考えというふうに）。

そして、全体の話合いでは司会進行を子供に任せ、できるだけ教師の出場を減らした。子供が司会進行を務めることで、より意見の出しやすい雰囲気をつくることができた。また、話合い中、教師は「Google ノート」を板書のように利用し、話合い後は、その板書データを「Google クラブルーム」で共有できるようにした。

この全体の話合いでは、自分の考えの根拠となるグラフを iPad のミラーリング機能を利用してスクリーンに映しながら説明する子供もいた。

授業中は、ワークシートや SKYMENU の「ポジショニング機能」を活用することで、個々の考えの変化を可視化した。ポジショニングは交差する2軸で分けられた4つの考えから、自分の考えをマークで表示するものである。授業の冒頭、フリー交流後、全体での話合い後に操作した。この時、交流を通して自分の考えが変化せずに「確信した」というとらえも認めた。こうして「変化」や「確信」を認識することで、交流の価値に気づき、今後の交流に有用感と必要感をもてるようにした。

さらに、ふりかえりでは「Google フォーム」を活用することで、授業の満足度や参加度を簡単に把握することができた。

【成果】

子供は4色カラーカードを利用するなどして積極的に交流することができた。また、教師も子供も効果的に情報端末を活用することができた。

【課題】

話の内容をより深められるように、工業生産の問題をさらに焦点化させておく必要があった。また、交流時に互いの意見を引き出すための手だて（「どうしてそう考えたのですか」というような言葉かけ）を講じる必要があった。

【資料】

資料1 自分の考えを説明している様子



資料2 フリー交流の様子